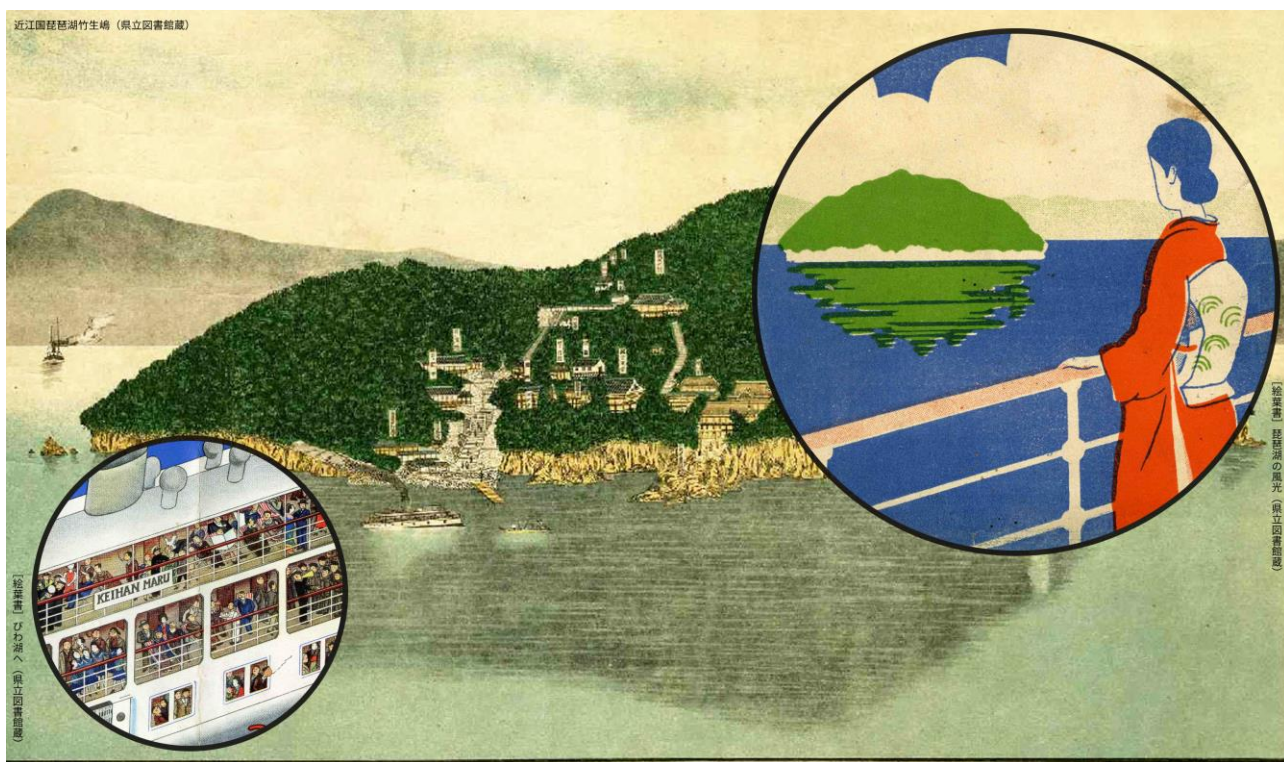


開館記念誌
刊行特別展

湖国遊覧の幕開け

一大正期の風景利用—

令和3年3月1日発行
編集・発行
滋賀県立公文書館



2021年3月1日（月）～4月28日（水）

午前9時～午後5時 土日祝日休館 入館無料

滋賀県立公文書館 〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号 県庁新館3階
Tel 077-528-3126 <https://archives.pref.shiga.lg.jp>

開館記念誌
刊行特別展

湖国遊覧の幕開け

一大正期の風景利用—

令和3年（2021年）3月、当館では開館記念誌『歴史公文書が語る湖国—明治・大正・昭和の滋賀県—』を刊行いたします。本書は、明治期から昭和期までの滋賀県の歩みについて、当館所蔵の歴史公文書等をもとにご紹介するものです。今回の展示では、本書の編集過程で新たに浮かび上がってきた、大正期の観光政策を取り上げたいと思います。

【展示概要】

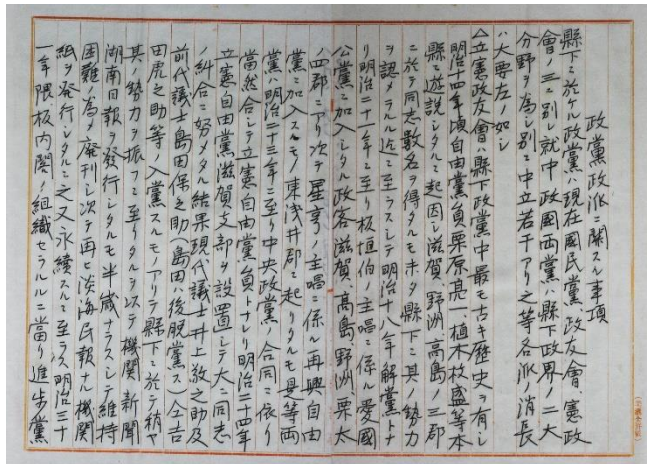
期間 令和3年3月1日（月）～同年4月28日（水）

会場 滋賀県立公文書館（県庁新館3階）

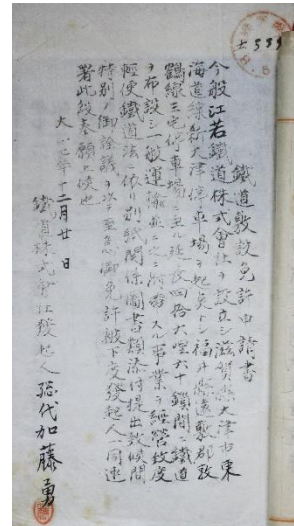
日時 月曜日～金曜日（祝日を除く）

9時～17時

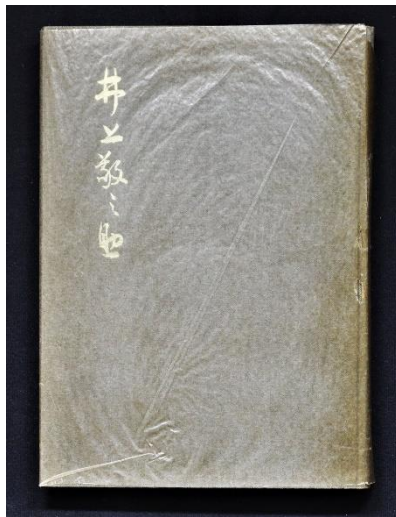
内容 滋賀県特定歴史公文書等 26点



1-3 「高等警察に関する事務引継書」大正8年4月
【大お1-2 (9)】



1-1 「江若鉄道敷設免許申請書」大正7年12月20日
【大と8 (2)】



1-4 木村緑生編著『井上敬之助』昭和37年4月
(当館蔵)



1-2 「堀田義次郎の肖像写真」
【寄1-8】

政友会の党政拡大

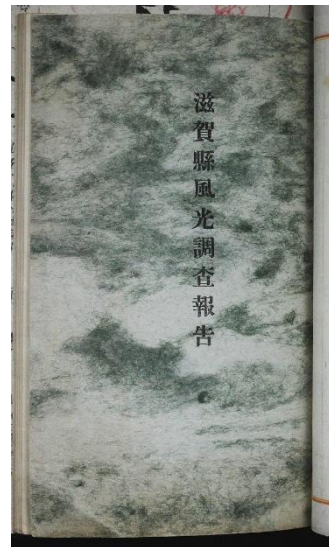
明治期の滋賀県会は、長らく進歩党系（憲政本党、立憲国民党）の勢力が優勢でしたが、明治末期から立憲政友会系の知事が赴任するようになると、同党は急速に勢力を拡大していきました。

たとえば、大正六年（一九一七）十二月に赴任した森正隆知事は、湖西の江若鉄道敷設を推進し、当時県会議長を務めた高島郡の有力者・安原仁兵衛（国民党）を政友会に入党させています。

大正八年四月に赴任した堀田義次郎知事も、原敬内閣の積極政策にならって、巨額の道路改良事業や教育機関（中学校・工業学校等）の整備に努め、県内の党勢拡大に大きな役割を果たしました。

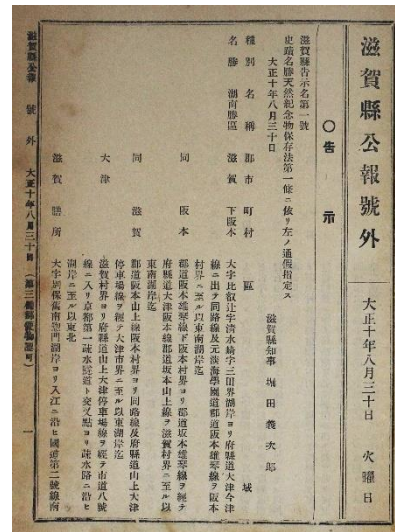
彼らの背後には、大正二年から県支部長を務めた井上敬之助の存在がありました。井上は、県会議長や衆議院議員（六期）、党本部の総務まで歴任した、県政界きつての実力者でした。時の総裁原敬の信任も厚く、その影響力の大ききから、「私設知事」とも称されたようです。知事与党の立場を利用して、党勢拡大を強力に推進し、先述の安原や、国民党の重鎮・富田八郎（伊香郡）などを、次々と政友会に入党させ、「山川草木政友会になびかざるなし」と豪語するほど、政友会の一時代を築き上げました。

その功績を称え、昭和三十七年には、最後の県支部長を務めた服部岩吉の主導で、銅像（大津市打出浜）と評伝（写真1-4）が作られています。



2-1 『滋賀県風光調査報告』大正4年4月24日

【大て 11 (3)】



2-2「湖南勝区の仮指定」大正10年8月30日

(『滋賀県公報』 滋賀県蔵)

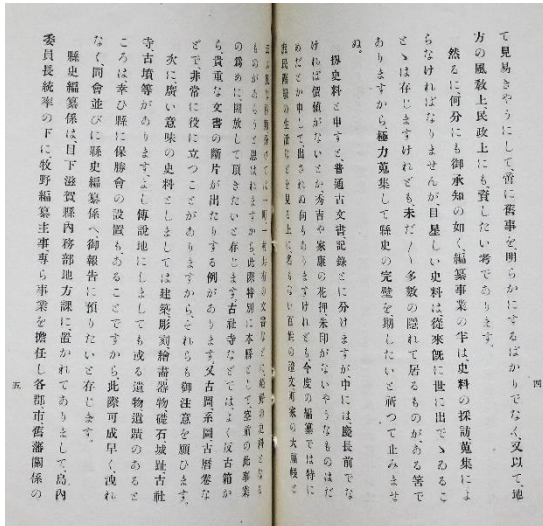
景勝地の利用と保護

公共事業が拡大の一途をたどるなか、近江八景に代衣される県内の景勝地も、新たな開発の対象となつていきました。大正二年（一九一三）十二月の県会では、「遊覧地」にふさわしい環境整備のため、風光調査の実施を求める建議を可決しています。

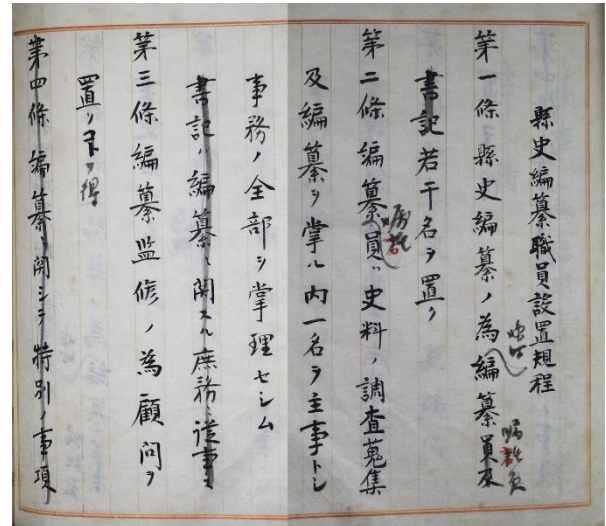
翌年県内務部は、本多静六（東京帝国大学教授）らに調査を依頼し、大正四年四月に「滋賀県風光調査報告」をとりまとめました。この報告書では、将来の風景利用には、必ず自動車道が主になるとして、県下全域を包含する大中小諸種の回遊線網計画が提言されています。積極政策を掲げる堀田知事の下で、大正九年度より予算化され、昭和十一年（一九三六）に完成を迎えました（琵琶湖周遊道路）。

その一方、大正八年六月に史跡名勝天然紀念物保存法（文化財保護法の前身）が施行されると、県は翌九年六月に滋賀県保勝会を発足させ、保存すべき景勝地等の調査も行っています。十年八月には、近江八景の名所などを「湖南勝区」と認定（仮指定）し、工場新設等の規制を強めました。

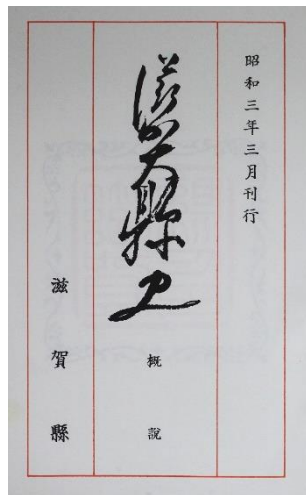
しかしこの区域は、交通の便がよく、琵琶湖の水質がレーヨン工場の立地に大変適していたため、大正十五年七月、大津工業会は勝区縮小の請願書を知事に提出しています（写真2-4）。その結果、昭和三年九月には、一部の指定が解除されるに至り、景勝地保全の観点は後退していくことになるのです。



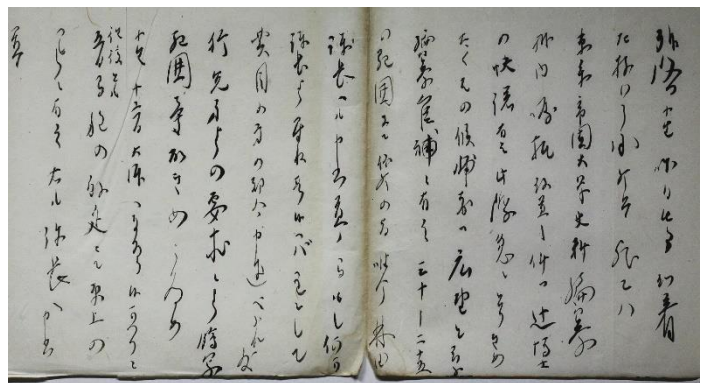
3-3『滋賀県史編纂の要旨と史料提出に就ての希望』
大正10年11月【明ふ150-4 (12)】



3-1「県史編纂職員設置規程」大正10年3月16日
【大あ43-5 (36)】



3-4『滋賀県史』昭和3年3月25日
(滋賀県蔵)



3-2「史料編纂掛嘱託依頼の書簡」大正10年7月8日
【大お7 (14)】

『滋賀県史』の編纂

景勝地の着目とともに、県の歴史を見つめなおそうという機運も次第に高まってきました。大正七年（一九一八）十二月の県会では、県誌（史）編纂予算が可決され、翌八年十一月、県内務部は郡市に県史編纂資料の提出を呼びかけています。

大正十年度からは予算も増額され、専任の編纂嘱託員として、当時福井県で県史編纂に従事していた牧野信之助が招聘されました。さらに牧野を推薦した三浦周行（京都帝国大学教授）も顧問に迎え、管内の名望家らに史料収集のための協議員を委嘱するなど、編纂体制の強化が図られていきます。

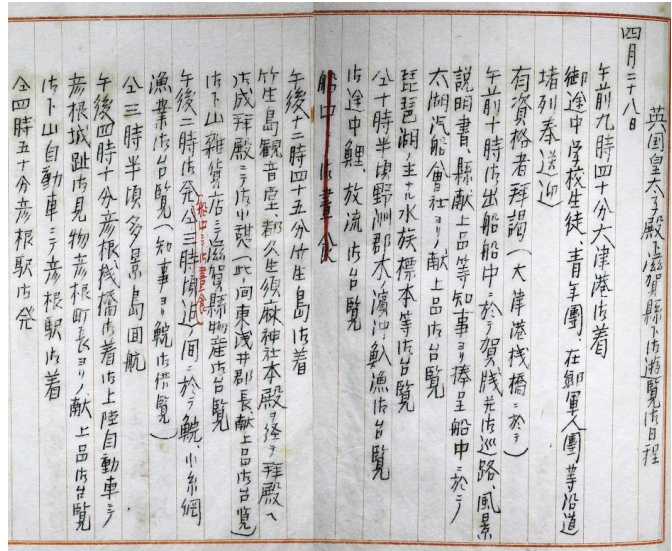
史料収集の方針としては、秀吉や家康といった著名人のものにとどまらず、「庶民階級の生活」を描くため、「名もない百姓の証文」なども重視されました。牧野にとつて、県史編纂の目的は、「この国土に生活し関係のある人々の祖先の活動」を一つの体系の下に叙述することにあつたのです。

こうして、昭和三年三月に完成した『滋賀県史』全六巻は、第一巻を概説にあて、平易な口語文で叙述するなど、読者を意識した構成となっています。題箋（扉の字の揮毫）は杉浦重剛、装丁を杉浦非水が担当しており、デザインにもこだわりが伺えます。

その後も牧野は、『堺市史』『北海道史』に携わり、晩年は『大津市史』の監修を務めるなど、地方史編纂のエキスパートとして、多くの業績を残しました。



4-3 「人力車を牽くエドワード」 大正 11 年 4 月
【寄 1-2】



4-1 「英国皇太子殿下滋賀県下御遊覧御日程」
大正 11 年 3 月頃【明お 53-2 (8)】



4-4 「英国皇太子殿下接待必携」 大正 11 年
【寄 1-13】



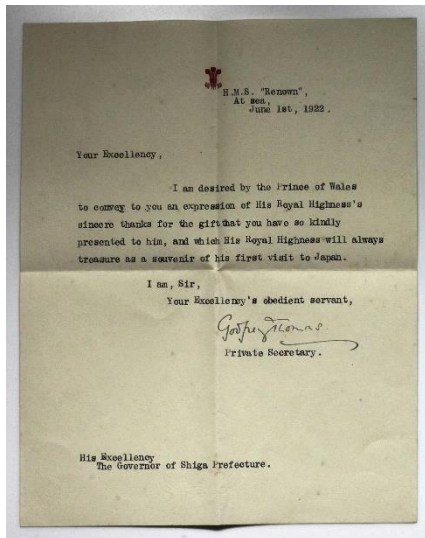
4-2 「エドワードの肖像写真」 大正 11 年 4 月
【寄 1-4】

英国王太子の琵琶湖遊覧

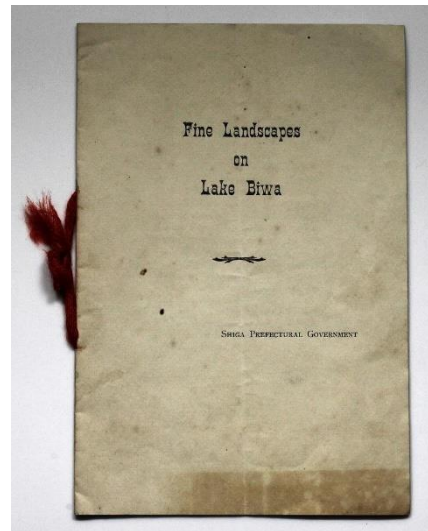
大正十年（一九二一）十二月、県知事堀田義次郎は、内務省より英国王太子エドワード（エドワード八世）の来県を伝えられます。翌年一月、堀田は内務大臣官邸で開かれた打合せ会に出席。同年三月には、同省より滞在日程の細目案が送られました。その後、県が作成した写真4-1によれば、四月二十八日朝に大津港で乗船したエドワードは、野洲郡木ノ浜沖でエリ漁を見学し、昼には竹生島に到着。さらに多景島を巡り、上陸後に彦根城を見物する予定が組まれています。

写真1-2、4-2、5-4、6-4は、平成三十一年四月二十六日に堀田清子・綾岡氏より当館に寄贈いただいた「堀田義次郎関係文書」の一部です。同文書は、堀田個人の人物を伺うことのできる資料群であるとともに、県知事時代のエドワード来県に関する貴重な資料が多数含まれています。大正十年五月に訪英した裕仁親王（昭和天皇）が「熱誠ナル歓迎」を受けたことから、宮内省からは、エドワードを心して歓迎するよう指示がありました。

エドワード八世は、一九三六年一月二十日にイギリス国王として即位し、同年十二月十一日まで在位した人物です。在位期間が歴代最短の三二五日であるのは、離婚歴のあるアメリカ人ウォリス・シンプソンと結婚するためでした。この行動は「王冠を賭けた恋」として知られ、映画「ウォリスとエドワード」は二〇二二年に日本でも公開されています。



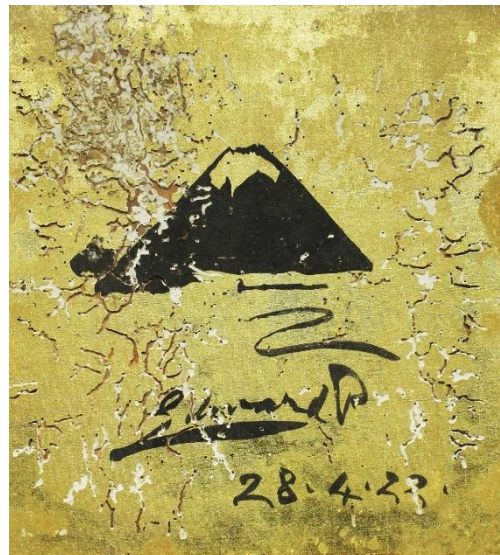
5-3 「王太子殿下への贈り物のお礼」 大正 11 年 6 月 1 日
【寄 1-12】



5-1 『Fine Landscapes on Lake Biwa』 大正 11 年 4 月
【寄 1-36】



5-4 「英国皇太子殿下啓紀念帖」 大正 11 年
【寄 1-51】



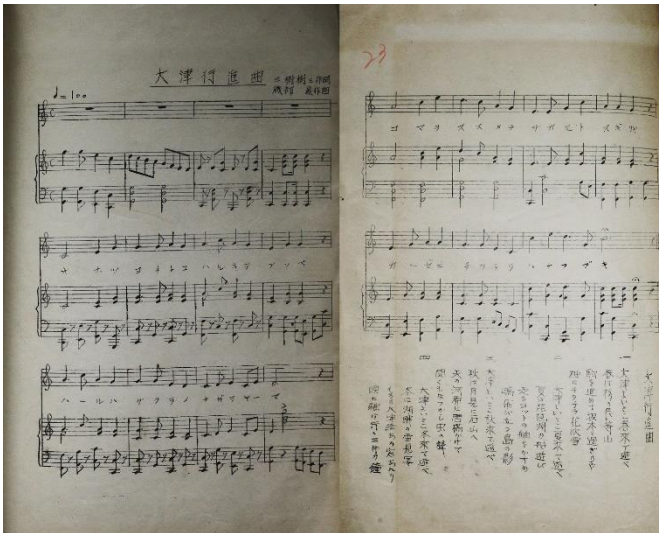
5-2 「エドワード筆《富士山》」 大正 11 年 4 月 28 日
【寄 1-50】

エドワードが描いた富士山

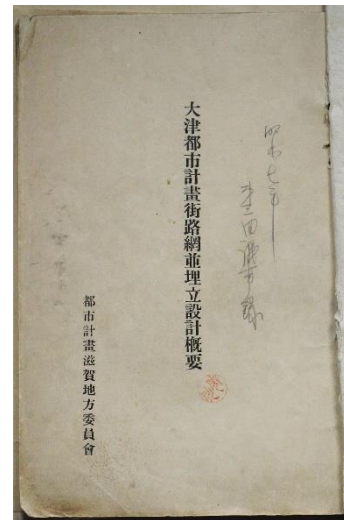
エドワードの訪問にあたり、県は敬意を表するため、湖国二十勝の画帳を作成しています。知事の依頼により、県内の景勝地が滋賀郡中庄村（現・大津市）出身の画家・山元春挙と、その門人の山元春汀、柴田晩葉、足田春湖の手で、特別に描かれています。写真 5-1 は、英語で記されたその解説書で、「The Autumn Moon of Isiyama」（石山の秋月）や、「The Evening View seen from the Seta Bridge」（瀬田の夕照）等の見所が説明されています。

写真 5-2 は、エドワードの署名とともに、来県した日付が記された富士山の絵です。船上で堀田知事が奉迎文を読み上げ、画帳を献上した際に、下賜されたものと見られます。奉迎文には、「彼ノ富岳ト秀勝ヲ対称スル琵琶湖」という表現があり、琵琶湖を描いた画帳の返礼という意味合いがあったのでしょうか。少なくとも二枚以上描かれたようで、珍田接供官と渡辺式部官に送られています。堀田所蔵分は、いずれかより譲られたか、三枚目のものと考えられます。

写真 5-4 は、エドワードの訪問を記念して県が作成した写真帳です。湖国二十勝の画帳に収められた絵と解説の写真等が掲載されています。エドワード帰国後の大正十一年七月、県会議員や郡長、新聞社などに贈られました。写真とはいえ、本県を代表する画家・山元春挙らが描いた湖国の情景をうかがうことができ、美術史的にも貴重な一冊といえます。



6-3「大津行進曲」昭和7年
【昭こ25(23)】



6-1『大津都市計画街路網埋立設定概要』
昭和7年9月30日【昭な184(1)】



6-4「[葉書] 堀田義次郎顕彰像」昭和59年10月
【寄1-45】



6-2「大津都市計画区域一般図」昭和7年8月
【昭な184(1)】

都市計画の策定

県都大津の人口は、大正期には飽和状態を迎え、実質的な都市の範囲が、行政区分としての市域外まで及ぶようになっていました。そのため、昭和二年（一九二七）九月の大津市会では、近隣町村を含めた総合的な都市計画の必要性が議論され、内務省に都市計画指定を促す建議を可決しています。

昭和三年一月、同省はこの要望を受け入れ、翌年六月、北は坂本村から、南は石山町・瀬田町までを都市計画区域に指定しました。

その後、昭和七年九月に策定された都市計画では、「我国屈指ノ遊覧地」たる大津に街路網を整備することと、過密緩和のための湖岸埋め立てが明記されています。将来の都市交通機関として、バスの利用が見込まれ、五一の路線が定められました。

近隣町村との合併も進められ、昭和七年五月に滋賀村、翌八年四月には膳所町・石山町を加えた「大大津市」が誕生します。市会には政友会系が圧倒的に優勢で、初代新大津市長に就いたのは、元県知事の堀田義次郎でした。

大津市長を三期務めた堀田は、膳所の湖岸埋め立てや石山公園の新設など、大津の遊覧都市化に努めますが、日中戦争の影響もあり、本格的な湖岸道路の整備は、戦後に持ち越されました。その努力は、昭和二十五年七月、全国初の国定公園（琵琶湖国定公園）指定として、実を結ぶこととなります。

【展示関連年表】

西暦	元号	月	日	出来事	図録
1913	大正 2	11	-	井上敬之助が立憲政友会滋賀県支部長に就任する	1-4
		12	10	滋賀県会で風光調査の実施を求める建議が可決される	
1914	大正 3	7	28	第一次世界大戦が起こる	
1915	大正 4	4	24	滋賀県風光調査報告がとりまとめられる	2-1
1917	大正 6	12	17	森正隆が滋賀県知事に就任する	1-1
1918	大正 7	12	14	県誌(史)編纂予算が県会で可決される	
1919	大正 8	4	18	堀田義次郎が滋賀県知事に就任する	1-2
		6	1	史跡名勝天然記念物保存法が施行される	
1921	大正 10	5	7	裕仁親王(昭和天皇)がイギリスを訪れる	
		8	30	近江八景などの名所が湖南勝区に仮指定される	2-2
1922	大正 11	4	28	イギリス王太子エドワード(エドワード 8 世)が滋賀県を訪れる	4-1
		6	1	エドワードの秘書官が献上品のお礼状を認める	5-3
1923	大正 12	9	1	関東大震災が起こる	
		10	25	堀田義次郎が県知事を退任する	
1928	昭和 3	3	25	『滋賀県史』が刊行される	3-4
1931	昭和 6	9	18	満州事変が起こる	
1932	昭和 7	5	10	大津市と滋賀村が合併する	6-2
		9	30	大津都市計画が策定される	6-1
1933	昭和 8	4	1	大津市と膳所・石山町が合併する	
		6	21	堀田義次郎が大津市長に就任する	
1934	昭和 9	10	27	琵琶湖ホテルが開業する	
1936	昭和 11	6	28	琵琶湖周遊道路が完成する	
1937	昭和 12	7	7	盧溝橋事件(日中戦争)が起こる	
1941	昭和 16	12	8	太平洋戦争が始まる	
1945	昭和 20	8	14	ポツダム宣言が受諾される	
1950	昭和 25	7	24	琵琶湖とその周辺地域が琵琶湖国定公園に指定される	

展示図録 湖国遊覧の幕開け

令和 3 年 (2021 年) 3 月 1 日

編集・発行

滋賀県立公文書館

〒520-8577

滋賀県大津市京町四丁目 1 番 1 号

滋賀県庁新館 3 階

Tel : 077-528-3126

Fax : 077-528-4813

Mail : archives@pref.shiga.lg.jp



7-1「瀬田中島」

『湖国聚英』【資 570】昭和 3 年 11 月